



読字 原田 親

No. 609

2010/7/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0044 東京都中央区千代田
西船場1-1-1 東5号2C43室

日中友好協会
岡山支部
〒700-8236
岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-0011
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



日中友好協会岡山支部

二〇一〇年度総会を開催

9月を創立60周年の記念月間に



2009年度の活動報告は、各理事が担当分の説明をし、決算、監査報告とも拍手で承認されました。

今年度の総会は、岡山支部の役員「理事・監査」がすべて出席し、参加者数も26人とここ数年ではもっとも多い人数でした。また、高島公民館の館長から「地域に中国からの帰国者が多い公民館として、日本語教室などを通して、日中友好になればと思っています。」とのあいさつをいただきました。これは特筆すべきことです。

で、その「歴史と現状」についてもっと勉強しなければと思ったと述べました。

最後に小林事務局長より今年度は、日中友好協会創立60周年の節目の年です。岡山県では、9月を60周年記念月間と位置づけ、中国料理教室(9月12日)、柳条湖事件ビデオ配布・中国帰国者との交流会(9月18日)、創立60周年記念岡山集会(9月26日)などに取り組み、日中友好の風を吹かせたいとの決意を込めた閉会のあいさつがありました。

総会後に昼食を食べ、午後からは「泥にまみれた靴で」などを観賞し、日中不再戦を誓い合いました。

小林

午後には!

午後にはDVDを見ました。予定されていた「きけわだつみのこえ」はDVDディスクの不具合でNHKテレビ、「ETV特集」の録画に変更されました。

これはさる4月に死去した井上ひさしさんの最後の戯曲「組曲 虐殺」をめぐっての番組です。井上さんが、主人公の小林多喜二に寄せる思い、多喜二と同時代を生き作家志望だった井上さんの父親への想いを、友人や家族が語っています。「絶望するな」あとにつづく

ものを信じて「走れ」という戯曲にこめられたメッセージをしっかりと受け止めなければと思ってしまう。

つぎに、「泥にまみれた靴で」を見ました。

日本軍が、中国の地で行った殺人や暴虐のあざむき……自らの体験をこのように語るのには、どんなに勇気がいったことでしょうか。

若い母親から赤ちゃんを奪い、軍靴でふみつけて殺したり、キモだめしで銃剣で刺殺したり……日本刀で中国人の首を刎ね、その首を左手にぶらさげ胸をはって立つ日本兵の姿など、私はしばしば顔をおおって見ることができませんでした。

元軍人は語ります。ひとり殺すと、殺人に馴れて平気で人

を殺せるようになる「そして人を殺した兵士の目は、会っただけでわかる 野獣の目」になっていて「大間の目ではなかった」と。私は、本当に、殺人も戦争も大きいです。

日中友好協会の目的「日本と中国が再び戦うことがないよう(中略)日中両国民の相互理解と友好を深め(中略)アジアと世界の平和に貢献する」ということばの重みを痛感します。

ところが今の日本は5兆円近い税金を軍事費に使い、ふたたび戦争の準備を始めています。このお金が弱い立場の人、貧しい人たちのために使われたら、どんなに幸せな笑顔が増えることでしょうか。

坪井あき子

日本と中国の歴史 良くわかった 倉敷支部の第3回文化講演会

6月20日、倉敷医療生協会館でひらかれた日中友好協会倉敷支部の第3回中国問題文化講演会は、雨にもかかわらず盛会でした。

大本芳子理事の司会で、まず大森支部長の「最近の中国事情の報告からはじまりました。講演は、倉敷支部の理事長・栗本泰治氏の「日中戦争をどう見る

か」でした。

日中両国の学者20人による「日中歴史共同研究報告書」を引用しながら、戦争の経過をたどり自分の訪中経験をまじえて話され、説得力がありました。

「満州事変」とか、「支那事変」と言われたように、なぜ「戦争」と言わず「事変」と言ったのか。侵略戦争に反対するたたかいたいの



中で新中国が誕生したこと。日清戦争が、日本が進路をあやまる歴史の転換点になったことなどわかりやすい話でした。参加者がしだいに増え、継続こそ「ちから」だと感じました。

宮地義男

7月7日はもうひとつの七夕 盧溝橋事件73周年

今年1937年7月7日の盧溝橋事件から73年、日中友好協会岡山支部は、今年午前10時30分から天満屋アリスの広場前でチラシを配り、日中不再戦、憲法9条改悪反対の宣伝活動を行います。皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

第80回日中文化講座

「いまの中国をどう見るかー映画・漫画を通してー」

石子順氏 講演 ②

四川のうたの内容は、地震があつた四川省の成都に、1950年代中国の東北地方から移動してきた巨大な軍需工場があるんですね。空軍のジェット機のエンジンなどを作ったり整備したりする工場です。北の方にあつては、国境に近くて危ないので、それで成都という奥地にまで移動してきた、労働者5千人の大工場です。この大きな工場が、07年に閉鎖されてしまつて、膨大な土地を全部、民間の不動産屋に売ってしまった。それで今、成都で何が起つているかというところ、この240工場とい

われていた跡地に24の城という高給な住宅が建ちつつあるんです。ジャ・ジャンクーという監督は、この工場が閉鎖される閉鎖式典からこの映画を始めるんです。一杯労働者が集まつて、愛国歌である「わが祖国」という歌を歌つてね。わが祖国」という歌は、北京オリンピックの開会式で小さな女の子が歌つたあの歌です。この歌を歌つて閉社式をやるところから始まるんです。そこで働いていた労働者達にインタビューして、昔の生活はどうだったかとか、今はどうだ

とか。この労働者は、労働者の中でもエリートなんです、空軍ですから。絶対失業なんてあるはずなかったのが、こういう時代になつて、軍需産業というのが成り立たなくなつてしまつた。それで電気製品なんかも作つてみたんだけど規模が大きすぎて、人手が余つてしまつたので、電気製品の工場は近くの小さなところに移つて、大きいところは売つてしまふということなんです。

つづく

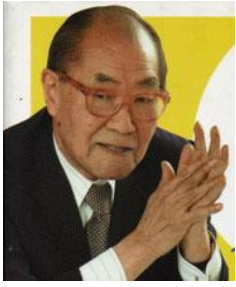


「四川の歌」 ジョアン・チェン



5月3日の憲法集会

品川正治さんの講演を聞いて



当日はゴールデンウィークの真ん中という条件の中、約350名ほどの聴衆で、品川さんのお話を聞きました。86歳という高齢にもかかわらず、熱い想いがあふれる話し振りでした。まず最初に、「自分の戦争体験から、戦争というものをどうとらえているか」を話されました。20歳の時に召集され、満州へと送られ、戦場のさなか、迫撃砲にやられて、今もその時の破片が右足に残っているそうです。

「この戦争で、命を失った全ての人々になんと言えはいいのでしょうか。ましてや、侵略された中国や南方の人々に対して、日本はどう償つてきたのでしょうか。戦争」というのは、人間がおこすものです。けつして天災のような災害ではありません。しかし、戦争を止めるのも、戦争を許さないのも人間だということです。憲法9条を変えよう、なくそうという流れが、今、少し弱まってきたてはいます。力をゆるめることなく、憲法を生活に活かしていかなくてはなりません。また、憲法が制定されて、すでに63年経過していることは大きな力です。この憲法のもとで生きてきた人々は、今の平和を当たり前のこととして生活してきているわけです。時間をオーバーしても、まだまだ話したくないようで、3回ほど司会の方からメモが届いていました。その後、質問にも答えられ、「消費税は必要ない」と、はっきりおっしゃつておられました。

真田

第6回地域人権問題全国研究集会

5月29日、30日と二日間、全国各地域人権運動総連合(旧全解連)と第6回全国研究集会岡山県実行委員会主催の第6回地域人権問題全国研究集会」が、憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会に

——貧困と格差をなくし地域社会に人権を確立しよう——をテーマに、岡山市で開催されました。初日の全体会は、岡山市民会館で開かれ、全国各地から約一五〇〇人が参加しました。集会では、渡辺治一橋大学名誉教授が「憲法を暮らしに活かす運動の到達点と課題」と題する記念講演があり、憲法25条を焦点に話されました。

また、特別報告「大権確立の取り組み・岡山」の一つとして、高杉さん(元中国残留孤児国賠訴訟岡山県原告団長)が、中国残留孤児問題について「報告し、あたたかい拍手につつまれました。二日目は、8つの分科会にわかれて、一部の自治体でいまだに「解同」の利権あさりのための同和事業・同和教育が続いていることへの告発や地域人権をかどの会に代表される、地域の人権を守る共同の取り組みが全国各地から報告され、交流を深めました。

私は、国際交流センターで開かれた第6分科会「地域社会の人権諸課題を住民連帯で取り組む」に参加し、中国帰国者の日本語教室のあゆみと課題」を報告しました。

日中友好協会岡山支部と中国帰国者の日本語教室岡山の会は、岡山県実行委員会に参加し、集会の宣伝、協賛広告、特別報告・分科会での発表及び当日の袋詰め・参加者の誘導など、集会の成功のために貢献しました。

次に、高杉さんの発言とそれに対する井上愛子さんの感想文を紹介します。

なお、私の報告については、次号で記載します。

高杉さんの発言で参加者が、感銘を受けたのは、中国人養父母について触れた「艾樹章としての生活」の部分です。

養父母の家は農家で生活は豊かではありませんが、私をやさしく育ててくれました。小学校時代には、近所の人から「日本鬼子」と言われていじめられた私を、本気で守ってくれました。多くの残留孤児たちが、養父母の家で働かされているときでも、養母は私を専門学校へまで進学させてくれました。

おかげで林業の技師として就職もでき、結婚もし、子供も生まれました。私は養父母の、特に養母の恩は一生忘れません。」

発言の後半で、岡山県人権連や日中友好協会岡山支部に対して「このように日本語で話ができるのも、皆さんのおかげです。」とお礼の言葉を述べられています。

小林軍治

地域人権問題全国研究集会に参加して

五月二十九日、一橋大学名誉教授渡辺治先生の熱弁を拝聴して特に印象深かったのは、未だに部落問題の偏見がある事に驚きました。地域での理解のある取組が必要です。

次に残留孤児原告団代表の高杉さんの朗々とよどみない日本語での発表には目を瞠(みは)るものがありました。

お母さんとはぐれて泣いている所を救われた様子、又、近所の子供に日本鬼子といじめられたもかばつて貰つて嬉しかった事等、貧しい中にも実の子として学校にも行かせて貰い、林業学校までも進学、やがて就職、結婚へと限らない愛情を受けて有難かつたと、感謝の言葉があふれていました。

帰国後、言葉の壁に苦労なさらたにもかかわらず困難を克服して立派に発表できた事、頭が下がります。小林先生の働きかけで弁護団の方々の御尽力で裁判へ、勝ち取る事は出来ませんでした。安倍総理のお計らいで給付金を受け取る事ができよかつた等、数々の感謝を述べられ素晴らしかつたです。

井上愛子

次回の新聞送付作業は7月12日(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。由 和 榎 木 内 井 森 垣 青 小 竹 竹 坪 西 三